

平成 30 年まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

- | | | |
|--------|---|--|
| 1. 日時 | : | 平成 30 年 6 月 28 日 (木) 19:00~21:00 |
| 2. 場所 | : | 湖南省役所東庁舎 3 階大会議室 |
| 3. テーマ | : | 平成 29 年度戦略事業の評価等 |
| 4. 参加者 | : | 参加者数 26 名
女性評価員 8 名、市長、副市長、教育長、市職員 15 名 |

1. あいさつ
 2. 自己紹介
 3. 茶話会の進め方について
 4. 各政策パッケージの説明・質疑応答
- ーパッケージ (1) (2) (5) ー

8'30

コーディネーター

政策評価携わっており、職員の質問などで評価をする経験はあるが、女性のみであり、大学関係が私だけということも初めて。私たちの役割は、私たちなりに検証すること、また行政側が自分たちで評価するときの材料とする。意見までいかなくても、困っていること、疑問でもいいし、日頃、友達のことでもいいと思う。意見が違うこともあるが、受け入れるようにしてほしい。意見交換していくことで私たちにも気づきが得られればと思う。計画検証、市民の声が必要といいながら行政側は集めたがらない自治体が多い。そういった意味で市職員に感謝したい。本日は 2 つに分けて、進めていきたい。働く場所・子育て教育環境について 15 分程度で市から説明してもらう。

13'30

説明者：働く、多様な働き方の説明。(パッケージシート (1))

20'00

説明者：子育ての説明。(パッケージシート (2))

26'00

説明者：教育の説明 (パッケージシート (5))

36'00

コーディネーター

自己紹介もかねて、説明があった内容で意見をどうぞ。

評価員 野球チーム、サッカーチームの立ち上げや運営をしている。以前は、転々としていた。一引っ越しするときは子育てしやすいかを重視した。学校が近い、いい学校があるか、交通が便利か、ゴミ袋が安いかなど細かいところも調べた。説明で印象的だったのは、生きる力の根っこを強くするということ。子どもにとってそれが一番だと思う。自己肯定感を身につけるに尽きると思う。奈良の田舎に住んでいたとき、子どもに体験させることが根っこになった。自然、動物、音楽でもなんでも本物を体験させることを小さいうちにさせる。根っこをつければ、あとは勝手に勉強やスポーツを子どもがするようになる。市は自然もある、車があれば色々なところに行ける。そういう意味では、本物が見られるいい場所だとも思う。そういうことを母親たちが知らずにスイミング、塾などに行かせてしまう。五感が鋭いうちにいろいろと経験させるとおのずと勉強もするようになる。生きる力の根っこをつけることを全面にすればよい。

評価員 東近江市在住。湖南省にきたのは2年前。事業者との話の中で女性が頑張るところを聞いて刺激を受けている。市民産業交流促進施設「ここぴあ」ができたりしているが、事業者に聞いてみると農産物って何が特産？と聞かれる。弥平とうがらし、下田ナスがメインに出ているが、この2種の加工品は難しい。野菜、果物で新たな特産品が生まれればいい。ここぴあに湖南省の野菜をたくさん並べてもらいたい。

評価員 生まれも現在も湖南省在住。昔とは違って今はお母さんが働いている。子どもは家に帰っても一人。学校から帰ってからの子どもたちの支援が欲しい。今の子どもは忙しい。年齢が上がるごとに色々と体験できる機会が減っていく。塾、習い事で多忙。大きい子も地域のことに参加できるようにしてもらいたい。まちづくり協議会に入って企画をしたが、参加率が少なかった。塾など以外のことができる環境がほしい。市はいろいろしているのに、SNSで発信はしていると思うが、私たちに伝わっていない。広報は新聞をとっている世帯のみに配布される。しかし、新聞をとっている世帯は少なくなっており、その情報も入ってこない。とっていないと申告制になるが、なかなかそこまでしない。公民館などにも取りにいかない。

評価員 生まれも現在も滋賀県。今日初めてパッケージシートの内容を知った。広報も楽しいページばかりみてしまう。フェイスブックを見ていると友達も県外へ出てって行く印象を持っている。私はずっと県内にいるのは、現状で交通の不便を感じないが、いったん大学で東京などへ出るとなかなか戻ってこなくて寂しく思っている。華やかさに欠ける街並み、交通の便に負ける。子育ての面を考えると、大津方面に学校がたくさんあることなどをみると、学校があればと思う。

評価員 記者職をしていた経験が長い。湖南省も取材したことがある。就職活動で放送局へ就職し滋賀県に戻ってきた。息子と娘もいて、自分のしたい仕事できて、実家もそこそこ近くて、幸せで充実している暮らしができており、今になって滋賀に帰っ

てきてよかったと思う。TVの仕事を通して滋賀県は充実した暮らしができること、田舎もあれば都会っぽいところもあるし、人は温かいし、人間関係に入り込めば仲良くなれるところがいいと思う。映画のロケでもよく来てくれるのは、滋賀県の人にはホスピタリティに溢れているから、ロケに来たいという監督やキャストもいる。滋賀県のいいところを住んでいる人やこれから滋賀県を担っていく子たちに伝えるのが大人の使命である。番組の企画でもそういう気持ちを持っていた。そういったところをPRしていきたいし、もっと知らせてほしかったと思う。生きていく力の根っこというところでは、大津市のいじめ対策はもうひとつだと思っている。自分の子どもでいじめがあったそうだが、私の感想では大人が介入しすぎて子どもの解決能力を失わせている。大人の論理で進んでいるように思う。子どもたちは進級しても「あの子と同じクラスにならなくてよかったわ」と言っており、何も解決していないと思った。結局わだかまりが残ったままである。社会に出ても、大人になってもつらいことはある。嫌なことがあったときに信頼できる人に話すとか、例えば好きなピアノを弾くとかジョギングなど、他に身を置けるところを子どもに教えることも大人の仕事。一つ一つの事象に捕らわれず、もっと広く子どもを育てる明確なビジョンを持ってほしい。そういう意味で生きる根っこは大切。

コーディネーター

生きる根っこは大切だが、どうやって施策を進めていくかが問題。

評価員 地域サポート役として湖南省市に来ている。女性というくくりでもライフスタイルによって感じ方は違う。わたしは独身という立場からすると、山も近い、割安で広い家、基本暮らしはのんびりで暮らしやすい。便利なところから来たから車をもっていないので自転車で生活してるがいろいろな拠点が遠いので、バスの本数を増やしてほしい。市民は民間タクシーを固定費で一定距離利用できるようにサービスがほしい。また、こういった意見を交わすとき、仕事でマーケティングなどの経験からいうと現状分析、うまくいっている指標が正しいのかがわかる必要があるが、今日の提供資料ではわからない。本当に評価をするのなら時間をかけて、まずは前提を事前に聞き取ってという作業が必要、これでは不十分だとおもう。基本、広報誌などは隅から隅まで読まない。関係のありそうなところだけを読む。子育てに関しての資料も最初の1ページで特徴がわかるようにしたほうがいい。

評価員 みなさんの話を聞いていて明確なビジョンがあってすごいなと思った。私はぼんやり生きてきたので。結婚を機に滋賀県へ。過ごしているうちに田んぼ風景に慣れてきて子育て環境がのんびりしている。中学校受験はさせず、あえていろんな人のなかに入って、地域の中学校で、自分たちで問題解決する力をつけてほしいと思って、市立の中学校へ行かせた。そこは生徒会活動が盛んである。問題解決を自分でさせる仕組みがあって安心して通わせている。大人の成功、失敗などいろんな姿をみせる必要がある。パッケージでは安心な職とあるが、ママのちからを活かせるとおも

う。働く場マザーズジョブズステーションといった場が湖南省にもあれば。周辺の小学生の支援があるといい。今の小学生はつながりが希薄。待機児童もあるが早いうちから保育園に入れないといけないという悪いうわさがある現状は心配。湖南省にはいいところがあるし、メイドイン湖南をたくさん作ってほしい。

コーディネーター

いろいろ行政はしているけれど市民に伝わってないという意見は、どの自治体でも挙がってくる。広報誌以外でどんなツールを使えばいいと思うか。

評価員 大津市はデータ放送、dボタンで有料広報誌がみれる。テレビだとネット使えない世代でも使える。

コーディネーター

webで載せても見られる人は限られる。

評価員 学校のたよりがいいのでは。あれはひととおり読むとおもう。学校に1枚ペーパーを渡すとか。

評価員 私が前住んでいたところでは、広報誌はポスティングされていた。

コーディネーター

実現するにはなかなかパワーがいる。

評価員 大きい都市だからできたのだと思う。

評価員 湖南省の10戸と都会の10戸は違う。1件1件離れている。SNSといってもお母さん方は・・・。

評価員 子育て世代の創業支援をFacebookで告知したときは、見ているお母さんはいるとおもった。家にいるからだと思う。でも一部の人。自治体を通じては一番効果あるように思う。

評価員 違う地域ではなかったが、湖南省では、回覧板を地域で回しており、詳しくは説明する旨が書いてある。

評価員 そうすることが大事。SNSが発達しているけど、本意が伝わらない怖さがある。対面して話して理解してもらえる。

評価員 わかる。SNS発信は言い回しをすごく考える。年配はSNSを見ない、ポスティングでも文字が小さいものは見ない。わかりやすいものでないと。

評価員 私は引越してきたときは、広報誌をよく見た。

コーディネーター

以上のことを踏まえて、市長からコメントをお願いします。

市長 市民にどう伝えるかは難しい。行政はいろいろなことをやっているつもりでも伝わってないと思いながらしている。SNSは見ない、字が小さいと読まないなど対象に応じたカスタマイズされた案内をしないと見てもらえない難しい時代。たしかに広報誌、ガイドブックの最初に一覧で載っているものがわからないと読む気もしないという声は参考となる。必要な人に全部届いているかは不安。アクティブにとれる

人はいいが、動けない人にどうアクセスしていけばいいか、各職員悩みながらしている。なにかアイデアがあれば教えてほしい。

評価員 私の住んでいるところと比べて湖南省は恵まれてると思った。住んでいるところは J R 沿線ではないので、周りは田んぼ。子どもを預かってくれるところは近くになる。田舎すぎて、高校の選択肢がない。高校の先生も 1 時間以内の通学でといわれる。そう思うと JR で京都、大阪の大学に家から通える幸せがある。私が住んでいるところが田舎すぎるだけだからこその意見だと思うが。

評価員 市バスになってから高校の選択肢が狭まった。昔は近江八幡市まで直通の J R バスが昔あり、八幡方面の高校に通う女子生徒はバス乗って行っていたが、行けなくなった。バスと J R の連絡も悪くなってしまった。駅で何十分も待つ。それだったら自転車で行ける範囲でとなっている。子どものしたいことを遮っているのでは若干感じている。

市長 それは、市バスのせいでなく、JR バスが連絡しなくなったことが原因。

コーディネーター

意見で共通しているのは自然の良さ、教育にも生かしてほしいというところ。農産物、特産品を作ること。新鮮なものは関心が高い。それでは、次に移り、それ以外のことについて、事務局から説明をお願いします。

説明：ふるさとづくりの促進（パッケージシート P 7）を中心に説明。

－パッケージ（3）－

評価員 いくらプロモーションしても住んでいる人が良いまちだと思わないといけない。たとえば観光客が多くても住んでいる人がいいと思っていないと。愛情、愛着をつくっていく、市民を巻き込んで農園などをしているのはいいこと。秀でている人、ユニークな人にスポットをあてているものがあればと思う。

コーディネーター

市のいいところは。

評価員 人がすごくいいなというところはある。他の市やったら許されないと上席から指摘をうけたことなど、柔らかい方がおおい。若い方は少ないが、良い方＝高齢のイメージ。

評価員 県内でいろいろ営業に行くが、県内でも長浜、彦根、甲賀で全く雰囲気が違う。一つの県なのに琵琶湖があるおかげなのか、県内でも地域で特色があるらしい。湖南省は中立、温かなイメージ、一番やさしい。もちろん市長が面白くフットワークが軽い。市長をフェイスブックで見ない日はない。スポーツを子どもにさせたい。サッカー、バスケ、野球などをするまへのカラダを動かす機会をつくっていききたい。指導者を呼んでくるなどでかかわっていききたい。

コーディネーター

市長からコメントを。

市長 たしかに、他市が争っているところを湖南省は一步引いて全体が落ち着くところで施策をうっていく。何故うちが儲かることを考えないのかと市職員に言うが、そういう行政姿勢で争いごとを好まない気がする。

評価員 大阪、尼崎など仕事でいろいろ点々としているので比較できるが、湖南省の好きなところは、生活リズムがいいところ。車を持ってなくてもより便利なところはある。しかし自転車で移動すると気分がかわっていい。それに、買い物が不便じゃなく、ある程度の暮らしやすさもあり、のんびりできる。また、こういう視点だったら魅力的に思ってくれそうと思うところをそれぞれ挙げていくなど、もう少しピンポイントにすると伝わりやすいと思う。「子育て」とひとくくりに示されても、子どもの成育段階によって支援が違ってくる。

評価員 以前発行したママパスポートという赤ちゃん世帯向け情報誌の表紙は市民の笑顔を載せている。ここに人のよさが表れている。みんな「ええ?!」といいながら撮らせてくれた。生活、仕事、子育てのバランスをとりながら、謙虚だから物足りなさもあるかもしれないが、みんなのよいところをすこしずつ伸ばしていく。私たちのグループは次のママたちの道筋をつくっていけたらと活動している。

評価員 商工会の職員としていうと、下田商店街の中にある川は珍しいと思う。車の通行は難しいけど。石部のまちなみもよい。その魅力をインバウンドに繋げたらいいと思う。県内でも外国人が多いから通訳もできるだろうし、古民家もあるから民泊も。着物を外国人は着るだけでも喜ぶ。電車を乗り継いで来ることは、特にヨーロッパ方面の外国人にとって苦ではない。路地、古民家、仏像が好き。外国人は日本ならではの体験を求めている。そういう意味では、湖南省はそういうところを発信したらいいのでは。

コーディネーター

(事務局に向かって) 観光・交流などの事業は。インバウンドは。

説明者 インバウンドを取り込む事業としては実施していない。外国人が何をおもしろいと思うのかを見つけるのが難しいと感じている。

評価員 友達に民泊やっている女性の方がいて、子育てママを使っている。いろいろなメニューは組めると思う。知人に実践している人がいるので案内できる。

コーディネーター

女性の方の職場づくりの観点からも応援してもらえればと。最後に何か言い残したことがあれば。

評価員 今日の意見を形にしてほしい。

評価員 子育て支援って小さい子ばかり。大きくなったら金額が大きくなっていくので、各年代で支援してほしい。大きくなったら大学で多額の出費・学費がかかる。そこ

に着手したらいいのでは。

コーディネーター

意見を総括すると、湖南省のいいところが出てきたこと、子育ての成長段階にあった支援、観光がんばってほしいなどの提案をいただいた。私たちは今日の内容を行政がどう受け止めたか知りたいし、施策に反映するのも知りたい。また、配布資料の工夫が必要との指摘もあった。茶話会全体についての意見は。

評価員 茶話会は、夜じゃないほうがいい。

評価員 子どもがいると夜は厳しい。ちょうど子どもが帰ってくる時間なので。

評価員 ネット参加がいいと思う。自宅で子どもを抱きながらでも参加できるのでは。

評価員 エッジはないけどやさしさがある地域。市長がエッジかせて頑張ってもらいたい。田舎にも都会にもなれる、ゆるやかな振れ幅があるまちでいいのでは。柔軟性があると思う。

評価員 他府県から来ている人が多く、受け入れできている。

市長 若い女性が少ないがゆえのこの茶話会の形態。そういう外からの若い女性が入ってくるまちが大切。外国、他都道府県出身多い。外から来てもらうとき受け止めることが得意ですよという発信もありだとも思う。

コーディネーター

たくさん意見がでた。一つでも参考にしてもらえれば。私たちが今日のことをきっかけに関心を持続していきたい。